

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 2月 25日

事業所名 Kids Labo123谷町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		時間帯をずらして小グループで指導訓練を行う。	
	2	職員の配置数は適切である	○		利用人数によって多めに配置している。	子どもの数に留まらず、いろいろの個性があるので適切であるかどうか難しい面がある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		室内は段差がない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		随時打合せや振り返りを行い、改善につなげている。	目標を具体的なものにし、職員間の情報共有・参画を進めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価結果をもとに、保護者の意向を把握して改善につなげている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPで公開。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		相談支援員さんなど外部の方が来所された際に、活動内容等を説明し、意見を求めている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修を積極的に活用している。	研修の回数増及び時間の確保が課題である。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	独自のチェックリストを活用している。	標準化ツールについては、今後検討したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎回工夫して活動に取り組んでいる。	より楽しく個を伸ばすプログラムとなるよう常に改善を図っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別と集団を組み合わせた活動内容としている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			振り返りや記録の共有の時間の十分な確保が課題である。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日報や連絡帳を活用。支援の改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者との面談を取り入れている。	計画を立て、早め早めに行っていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			

関係機関 や保護者 との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	人員に余裕があれば、児童指導員も参加する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者を通じて行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		すぐに連絡できるようにしているが、まだ実際に対応したことはない。	必要に応じて積極的に連携していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		電話や文言で細かい情報交換共有。また必要に応じて、保育所に出向いている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	十分できていない	積極的に連携していく。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		エルムおおさかななどの研修に参加。	専門機関等との連携やより積極的な研修等を進めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ感染予防等もありできていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		開催の場合は、児発管が参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者に状況を分かりやすく伝えるようにしている。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペア・トレ導入はできていないが、研修等の情報発信を行っている。	家庭での支援の在り方について発信していきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧な説明を心がけている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ感染予防等もありできていない。検討課題である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情等があった場合、迅速丁寧に対応するよう心掛けている。	より相談しやすい体制づくりを進める。また、職員一人一人の対応力の向上を図る。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	個々に情報を知らせるようにしている。	定期的な発信に努める。
	35	個人情報に十分注意している	○		配慮している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		日常的に意思の疎通を図っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	できていない。	行事への招待等は難しい問題がある。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを策定し活用している。	保護者への周知が十分できていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待につながるような、適切に対応している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		事例はないが、説明や記載等について改善していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者からの情報提供を受けて確認し、共有している。特におやつに留意している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を記入し共有している。	